

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：32643

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K17427

研究課題名（和文）看護教員のライフヒストリーアプローチにみる力量形成モデルの構築

研究課題名（英文）The creation of developmental ability model using life history narratives of nursing educators

研究代表者

田中 千尋 (TANAKA, Chihiro)

帝京大学・公私立大学の部局等・助教

研究者番号：00755952

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 600,000円

研究成果の概要（和文）：看護系大学の急増に伴い看護教員の資質が従来にも増して問われている。本研究では、社会的文脈や時代背景も含め看護教員の力量形成過程を明らかにし力量形成モデルの構築を目指した。その結果、専門学校に所属する看護教員10名を対象に分析を行い、教員養成課程受講を一つの契機とし、これまでの経験の意味を深く問いながら自律的に学んでいること、メンターに影響を受けていることを明らかにした。看護教員20名の語りから概念を再整理し、複数の現場の特殊性を生かしながら、共通性を見出しモデル構築に努めた。本モデルは、看護教員の力量形成を発展的に生み出していく生成的な機能をもつという点で貢献できるかもしれない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、やまだ（2020）の「対話的モデル生成」を参考にし複数の現場の特殊性を生かしながら、共通性を見出し、他の現場にも応用可能なことばで一般化していくことを目指した。また看護教員の経験の語りに着目し経験のプロセスを丁寧に記述し、多様な背景をもつ看護教員の力量形成過程を可視化した。力量形成の研究についてその多くが、部分的、断片的であったことを鑑みれば、本研究は独創性に値するものと考えられる。また本モデルは、看護教員の力量形成を発展的に生み出していく生成的な機能をもつという点で社会的意義をもつと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, we aimed to clarify the process of competence formation of the nursing faculty, including the social context and historical background, and construct a model for competence formation using the M-GTA analysis method. The results were as follows: (1) analysis of 10 nursing instructors affiliated with a vocational school revealed that they used their participation in a teacher training course as an opportunity to learn autonomously while reflecting upon their past experiences; the analysis also revealed that they were influenced by their mentors. (2) The concept of competence formation was reorganized from the narratives of 20 nursing faculty members and attempts were made to find commonalities in qualifications and competencies and construct a model while taking advantage of the characteristics of multiple nursing institutions. This model may contribute to the development of nursing faculty competence formation in terms of its generative function.

研究分野：看護教育学

キーワード：看護教員の力量形成過程 経験の語り モデル構築

## 1. 研究開始当初の背景

近年,わが国の看護教育において,学生の看護実践能力の開発を担う看護教員の資質が従来にも増して問われている。看護師の役割拡大に伴う質向上を目指すうえで何より重要なのは時代にあった看護師の育成であり,看護基礎教育を担う看護教員の質的,量的充実である。これまでの先行研究では,先述した看護教員の教育機関や実習場面,力量形成への影響要因など特定の側面に焦点を当てた,部分的,断片的な研究は多くみられるが,看護教員の経験や社会的背景を含め全体的(ホリスティック)に力量形成を把握する取り組みが熟していない。また,看護教員の「経験」は,経験年数のみに着目したものが多く,「経験の多様性」や「経験の全体性」を丁寧に描いたものは見当たらなかった。そこで本研究では看護教員の経験に着目した。

## 2. 研究の目的

本研究では先行研究に続き,ライフヒストリーの視点から社会的文脈や時代背景も含め看護教員はどのような経験から学び,どのように力量を形成しているのか力量形成過程を明らかにし,力量形成モデルの構築を目的とする。

## 3. 研究の方法

### 【研究】看護教員の資質・力量形成に関する文献検討

看護教員の資質・力量形成に関する先行研究を整理し,今後の課題を明らかにすることを目的とした。

### 【研究】専門学校に所属する看護教員の力量形成の構造

- 1)研究協力者の選定:調査協力が得られた新人看護教員(~3年)10名である。研究参加者の条件は看護系大学で研究参加者の募集方法はネットワークサンプリング法 Polit(2004)を用いた。
- 2)データ収集:半構成的面接法を採用した。新人看護教員の教育実践上の困難な経験について聞き取りを行なった。面接内容は同意を得て ICレコーダーに録音し,聞き取り内容を逐語録に起こし分析した。
- 3)データ分析方法:分析枠組みとして木下(2000)の修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ/Modified Grounded Theory Approachを採用した。

### 【研究】看護教員の力量形成モデルの生成~TEA 複線径路等至性アプローチによる分析~

- 1)研究協力者の選定:教育実践経験10年以上の熟達看護教員4名である。

本研究における熟達看護教員とは申請者がこれまで行った研究,より明らかとなった「ひとりの人としての生き方を大切にしながら反省的实践家として共同体の中で研鑽し継続している看護教員」であり,教師の発達(秋田,1999)を参考にし,教育実践経験10年以上の看護教員とした。以上の看護教員をお招きして話をきく,HSI(歴史的構造化ご招待)を採用した。

## 2) 調査方法

半構成的面接を2~4回行った。TEMでは,対象者と研究者の視点・見方の融合,すなわち結果の真正性に近づけるため,3回の面接を推奨している(サトウ,2015)。

1回目の面接終了後にTEM図を作成し,次回の面接でそれを提示し認識のずれを修正し,内容を深く掘り下げて真正性の確保に努めた。

- 3)分析方法:TEM分析の手法を基に分析を行った。さらに力量形成における分岐点をイメージネーションモデルを用いて分析した。

#### 4. 研究成果

##### 【研究】日本における看護教員の資質・力量形成に関する文献調査と今後の課題

看護教員の資質や力量に関する先行研究について、医学中央雑誌 Web 版(Ver.4)を用いて 2005 年～2019 年の文献を「看護教員」「資質」「力量」「能力」をキーワードとして抽出した国内の 45 文献を分析対象とし、文献調査を行った(図 1.2)。文献検討の結果、看護教員の力量に関する研究は、新人看護教員や専門学校に特化した教員の職業経験を解明するもの、実習指導場面に特化したものなどがみられた。

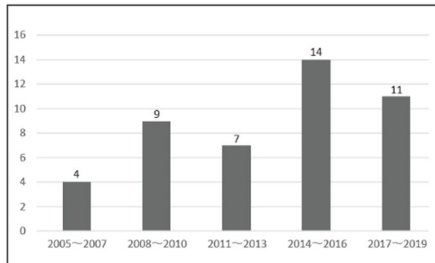


図 1. 対象文献数の年次推移

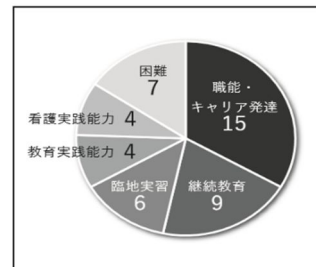


図 2. 論文テーマの分類

看護教員の資質・力量形成は【看護教員の学ぶ姿勢とキャリア観】【教育実践能力】【看護実践能力】【臨床実習指導】【看護や教育の経験】【サポートネットワークの存在】【継続的な研修の機会】【様々な困難】の 8 つのカテゴリーから構成された。わが国における看護教員の資質・力量形成に関する文献調査の結果から、人格的側面も含めた力量形成に着目する重要性をふまえ新任期から連続した継続教育のしくみをどのように考え、充実させていくべきか検討していく必要性が示唆された。

##### 【研究】専門学校に所属する看護教員の力量形成の構造

本研究では、看護専門学校に所属する看護教員はどのような経験を通して力量を形成しているのか明らかにすることを目的とした。方法：看護教育実践経験 4～9 年の看護教員 8 名に対し半構成的面接を実施し、データ分析に M-GTA を採用した質的研究である。結果：看護専門学校に所属する看護教員は、着任当初【役割変化に伴う葛藤】を経験しながら【協働の中で学ぶ】ことを通して力量を形成し【学ぶことへの希求】を強く抱きながら教育実践を重ねていた。そのような中、【教員養成課程受講後の変容】を一つの契機とし、【学生理解を深める】【教員らしさという枠が外れる】経験を通して自らと向き合っていた。その経験は【教員としてのアイデンティティを見出す】ことに繋がり、一人の人として【キャリアを描き続ける】姿につながっていた。考察：看護専門学校に所属する看護教員は、教員養成課程受講を一つの契機とし、自律的に学び力量を形成していた。特に力量形成において上司や同僚の存在は大きく、任務継続に影響を及ぼしていることが明らかとなった。今後は、個人の人生を時間とともに描く視点や個人の経験の多様性を明らかにしていく必要がある。

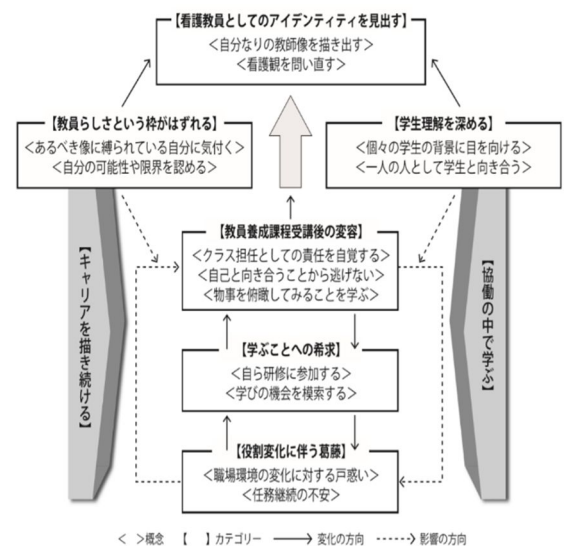


図 2. 専門学校に所属する看護教員の力量形成の構造

【研究】看護教員の力量形成モデルの生成 複線径路等至性アプローチによる分析

本研究は看護教員の経験に着目し、力量形成プロセスを明らかにすることを目的とした。教育実践経験 11 年の教員の語りを、複線径路等至性アプローチ (TEA) を用いて分析した。さらに分岐点に着目し、看護教員がイメージーションの助けを借りてどのように新たな次元を見出しているか可視化した。分岐点では「専門性の混在」がトリガーとなり、様々なせめぎ合いの中で「自身の学生時代のケアリング体験」や「看護学生の可能性」がリソースとして働き、看護教員は看護の価値を考え続けていた。そのプロセスは【看護教員として学問領域を超えて学び臨床に還元する】という展結的解として見出された。教員の力量形成プロセスにおける分岐点には、記号の創造とせめぎ合いが存在しており、文化を創造する一人の教員の姿が明らかとなった。

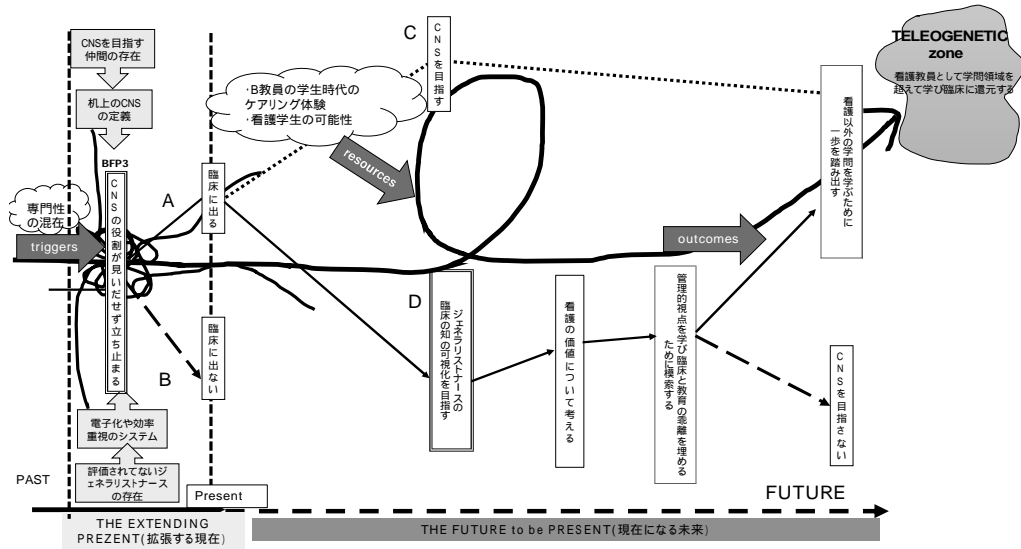


図 3. 分岐点におけるイメージーションと展結

【研究】看護教員の力量形成モデルの構築

本研究のまとめとして、これまでに報告してきた基礎的研究と実証的研究による知見を総合的に考察し、看護教員の力量形成モデルの生成を試みた。

表10. 研究協力者の概要

研究参加者	性別	年齢	教育実践経験	所属/職位	最終学歴	取得学位	看護教員養成課程修了の有無
A	女性	65~69歳	36年	専門学校/副校長	短期大学	準学士	有
B	女性	65~69歳	30年	短期大学/学科長	大学	学士	有
C	女性	65~69歳	23年	看護大学/教授	大学院	修士	有
D	女性	65~69歳	20年	看護大学/教授	大学院	修士	有
E	女性	50~54歳	17年	看護大学/講師	大学院	修士	有
F	女性	45~49歳	17年	看護大学/准教授	専門学校	博士	無
G	女性	70歳以上	16年	専門学校/主事	専門学校	無	有
H	女性	50~54歳	15年	専門学校/主事	専門学校	無	有
I	女性	50~54歳	14年	看護大学/講師	大学院	博士	有
J	女性	50~54歳	13年	看護大学/准教授	大学院	博士	有
K	女性	70歳以上	10年	看護大学/准教授	専門学校	無	有
L	女性	35~40歳	5年	専門学校	専門学校	無	有
M	女性	35~40歳	6年	専門学校	専門学校	無	有
N	男性	40~45歳	4年	専門学校	専門学校	無	有
O	女性	45~50歳	7年	専門学校	大学	学士	有
P	女性	35~40歳	6年	専門学校	専門学校	無	有
Q	女性	35~40歳	7年	専門学校	専門学校	無	有
R	女性	35~40歳	8年	専門学校	専門学校	無	有
S	女性	35~40歳	9年	専門学校	専門学校	無	有

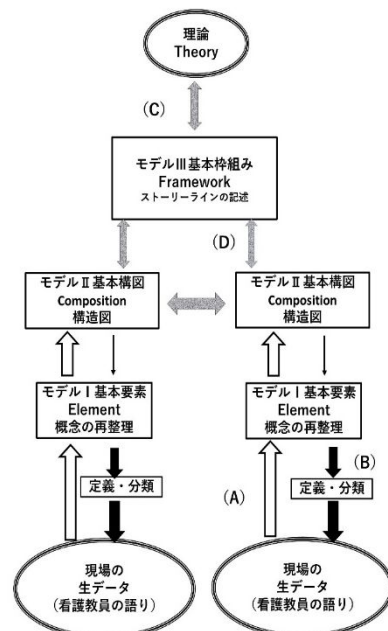


図 4. 現場データから 3 水準のモデル構成プロセス

やまだ (2020) を参考に作成

### 1) 看護教員の力量形成を示すストーリーライン

看護教員の力量形成には<看護教育に対する熱意を持ち続け(る)>、<看護観を問い直す>という【看護教育観】や<人生を見据えて目前の課題に対峙(する)>し、<自身の家族のケアから学ぶ>という【キャリア観】があり、《力量形成の基盤》として位置付けられた。看護教員は、<学生の指導に悩み立ち止まる>ことや<異なる価値観に遭遇する>経験を糧とし、【逆境に遭遇し内省する】経験を積み重ね力量を形成していた。さらに<講義を振り返(る)>り、<実習や学生との関わりを意味づける>という【教育実践を振り返り意味づける】ことを通して力量を形成しており、《内省と意味づけ》はそのプロセスを支える柱として位置付けられた。

また、看護教員は<上司や先輩の指導に支えられる><経験をともにしてきた仲間と相談する>という《協同の学び》の中で経験を重ねていた。力量形成の中心には、<職場環境の変化に対する戸惑いと不安>や<経験を重ねてきたからこそそのジレンマ>といった新人や熟達を問わず経験する【役割変化に伴う葛藤】が存在していた。また看護教員は<教育について学ぶ必要性を感じ(る)><学びの機会を模索し自ら積極的に研修に参加(する)>しており、そのあり様は【学ぶことへの希求と模索】の姿として描かれた。看護教員は経験を重ねる中で<あるべき像に縛られている自分に気付(く)>き、自己と向き合いながらリーダー的役割においては<自身が教育実践モデルを示(す)>し、<リーダーとして対局的にみる>視点をもちながら力量を形成していた。

さらに教育実践を通して<看護を問い続け(る)>ながら経験知のみではなく<研究のプロセスを通して学術的態度を身につける>ために努力を続けながら<教育実践と研究活動の狭間で葛藤(する)>し、多忙な時間的制約の中で【看護の知を創造(する)】していた。実践の場においては<実習における教材化は看護実践から生まれる>ため、<学生の気付きを大切に看護を可視化(する)>しながら【臨床の知を可視化する】ために努めていた。これらの実践は<個々の学生の背景に目を向け(る)>ながら<学生を尊重しともに学ぼうとする>姿であり<教員である前にひとりの人として存在(する)>しながら【人間理解の深化】へとつながっていることを示していた。

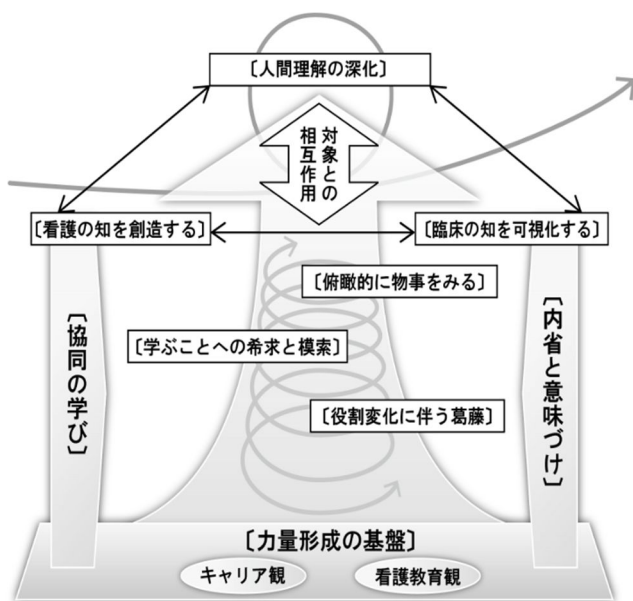


図 5. 看護教員の力量形成モデル

### 引用文献

- ・ Burns, N.Grove, S.K. (2005),The practice nursing research. 黒田 裕子, 中木 高夫, 小田 正枝, 他 (訳)(2007)バーンズ&グローブ看護研究入門 実施・評価・活用 (1), エルゼビア・ジャパン, 239-241.
- ・ 木下康仁(2003)グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践. 弘文堂, 92-104.
- ・ 秋田喜代美・藤岡完治・澤本和子(1999)教師が発達する道筋-文化に埋め込まれた発達の物語. ぎょうせい, 27-32.
- ・ サトウタツヤ(2015)TEM 的飽和.安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ(編), ワードマップ TEA 理論編-複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ(pp.24-28). 新曜社.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田中千尋、サトウタツヤ、土元哲平、宮下太陽	4. 巻 第20号臨時特集
2. 論文標題 TEA複線径路等至性アプローチにみる看護教員の力量形成プロセス－臨床現場から立ち上がった問いと対峙し続ける教員の語りから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 質的心理学研究	6. 最初と最後の頁 211-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中千尋	4. 巻 27-2
2. 論文標題 看護系大学に所属する新人看護教員の力量形成の様相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医学看護学教育学会	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Taiyo Miyashita, Teppei Tsuchimoto, Ikumi Ozawa, Taeko Kamikawa, Takuya Sotta, Chihiro Tanaka, Takao Tomono, Naoko Yokoyama
2. 発表標題 Ask the author on “An Invitation to Cultural Psychology”
3. 学会等名 Transnational Meeting on TEA
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Teppei Tsuchimoto, Taiyo Miyashita, Chihiro Tanaka
2. 発表標題 Basics and Applications of TEA: A new perspective for the dialogical self
3. 学会等名 Transnational Meeting on TEA
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tanaka, C, Sato, T, Miyashita, T, Tsuchimoto, T
2. 発表標題 Nursing Teachers' Ability Formation Process in the TEA Method Approach: Three Layers Model of Genesis Focusing on Instructor K's internal dialogue.
3. 学会等名 11th International Conference on the Dialogical Self . Ramon Llull University, Barcelona, Spain
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中千尋, 横山直子, サトウタツヤ
2. 発表標題 文化とともにある看護教員の力量形成過程—分岐点におけるイマジネーション理論を用いて—
3. 学会等名 日本看護学教育学会第31回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sato, T, Tsuchimoto, T, Miyashita, T, Tanaka, C
2. 発表標題 An Introduction to Trajectory Equifinality Approach: Theory and Practice
3. 学会等名 11th International Conference on the Dialogical Self. Ramon Llull University, Barcelona, Spain
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中千尋
2. 発表標題 Generation of a Model of Nursing Instructors' Formation of Educative Abilities: An Analysis using the Trajectory Equifinality Approach
3. 学会等名 第2回TEA国際学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中千尋
2. 発表標題 看護教員の力量形成過程に関する研究を通して見えてきた問い看護の文化における質的研究の可能性を探る 研究者を悩ませている看護独自の文化とは何か
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会シンポジウム（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中千尋
2. 発表標題 歴史的変遷にみる我が国の「看護教員の力量」の構造に関する予備的考察
3. 学会等名 日本看護歴史学会第32回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中千尋
2. 発表標題 看護専門学校に所属する教員の力量形成の様相
3. 学会等名 日本看護学教育学会第28回学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------